

平成28年漁期 まいわし漁獲可能量(TAC)期中改定案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		2016年				漁獲シナリオ (管理基準)	2017年				備考
		水準	動向	26年	27年	28年	28年 再評価		26年	27年	28年 当初 (7月改定)	28年 改定案	
まいわし	<p>【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持若しくは増大を基本方向として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>												<p>【28年当初TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、太平洋系群については漁獲シナリオ②の「親魚量の維持(34.0万トン)」、対馬暖流系群については、漁獲シナリオ③の「親魚量の確保(10.9万トン)」とし、これらの合計値に基づく44.9万トンをTAC数量とする。</p>
	太平洋	中位	増加	31.0	28.3	34.0	70.6	親魚量の維持					<p>【28年TAC期中改定の考え方】 当初TAC設定のベースとしたABCの再評価の結果、太平洋系群が70.6万トン、対馬暖流系群が9.8万トンとなったことから、これを合わせた数量80.4万トンにTAC数量を改定する。</p>
	対馬暖流	中位	増加	11.9	14.1	10.9	9.8	親魚量の確保					
合計			42.9	42.4	44.9	80.4		42.9	43.5	44.9 (47.9)	80.4		

注1) 27年のTAC欄は期中改定後の数量。

注2) 28年7月、「TAC期中改定の基本ルール」のケース2(漁場形成に応じた配分量の調整にともなうTAC改定)により、44.9万トンから47.9万トンに改定。